

かしわ☆レポート

◆ 平成 19 年度決算を認定

初日に行われた議案審議では、前回の議会で条例案が承認された住民税の天引き制度の経費を含む補正予算案が議論されました。

条例案でも反対をしましたが、今回も質疑・討論を行い、そのことに伴う事務や経費が増えること、そして分権改革の根幹が揺らぐということを訴えました。

これも事務効率化に名を借りた一種の公共事業です。採決では、私たち民主・春風の会と共産党が反対しましたが、18 対 5 で可決されてしまいました。

平成 19 年度の決算審査は委員会で詳しい質疑を行い、一般会計から駐車場、上下水道などすべての会計決算を承認（認定）しました。

◆ 長期的な資産管理計画が必要

一般質問では、①長期的な資産管理計画、②和光小学校増築問題、③し尿処理手数料の適正化について、質問を行いました。

日本では近い将来、人口が減少に転じることが予想されています。北海道や恵庭も例外ではありません。

恵庭市の人口推計



(出典：国立社会保障・人口問題研究所)

一番大切な計画である恵庭市の総合計画では人口の想定は 76000 人となっておりますが、それでも、今の市街地の中に収まる人口です。しかも、今の人口推計ではせいぜい 71000 人ほどがピークとされています。

施設は作るためにもお金がかかりますが、それを維持管理していくためにはさらに多くのお金を必

No.06 2008年10月19日



要とします。

今の子どもたちが大人になったときに、恵庭にはどのくらいの方が住んでいて、どれだけの施設が必要なのでしょう。それは建物に限らず、道路や上下水道も同じことが言えます。恵み野西口開発のように、大きく市域を広げることには賛成できません。

小林ちよみさんを 応援しています！



地方分権の時代と言いながらも、現状はお金、権限の両面で自治体はしばられています。私たち普通の市民の気持ちができる人、前衆議院議員の小林ちよみさんには、ぜひそこを変えていていただきたいと思っています。

◆ 小学校の適正規模とは

新しい小学校を作れば済むということではなく、将来も恵庭市全体の子どもたちが、等しくよい環境で学べることを目指して、学校の適正な規模を考える必要があると思います。学校校舎や通学の安全も大切ですが、公が行う教育には平等が求められます。

その目標達成に向けて、市全体のバランスを考えた上で、やはり黄金地区の小学校は必要性が高いと思っています。

今年の議会での大きな争点となっている、これら 4 大事業の概要をあらためて裏面に記載しています。

◆ 公共料金のあり方を問う

一般家庭ごみの有料化が議論されていますが、実はし尿（くみ取り）の処理料金は据え置かれました。恵庭では事業者でも収集運搬にかかる経費だけの負担で、処理費用は求めていません。そして、年々処理量が増えています。

ごみは排出抑制のために処理費用の一部を求める一方で、同じ公共料金がこれでは整合性がとれません。他の自治体では一般家庭と事業者で別の料金設定をしているところも多数あり、そのような設定は十分可能です。

